研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-540		17-318	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Sepsis in alcohol-related liver disease.
アルコール関連肝疾患と敗血症

執筆者

Gustot T, Fernandez J, Szabo G, Albillos A, Louvet A, Jalan R, Moreau R, Moreno C.

掲載誌

J Hepatol. 2017 Nov;67(5):1031-1050. doi: 10.1016/j.jhep.2017.06.013.

キーワード	PMID:
アルコール性肝硬変　重症アルコール性肝炎　敗血症　コルチコステロイド	28647569

要　旨

アルコール関連肝疾患（ALD）はアルコールによる死因として現在も最も重要なものであり続けている。感染症（特に細菌感染症）は、進行した ALD（例えばアルコール肝硬変や重症アルコール性肝炎（sAH））の最も頻繁かつ重篤な合併症の１つである。宿主の防御能が変化させられる特定の機序は、未だ明らかではない。

本研究の目的は ALD とその病態生理学的機序で感染性合併症についての現在の知識を概説することである。そして、アルコール消費と ALD の異なる型の貢献を区別することにある。

現時点において、コルチコステロイドは sAH に対する有効性が証明された唯一の治療である。しかし、感染症の発生へのそれらの影響については論争がある。

sAH の宿主防御機能の低下とコルチコステロイド治療の組合せは、日和見的な菌類のおよびウイルス感染の原因として示唆された。系統的スクリーニングによる高レベル疑いと迅速で十分な治療は、これらの患者で結果を改善するために正当化される。

十分な治療法にもかかわらず高い短期死亡率のため、この高リスク集団の予防的であるか先制的戦略は好ましいオプションであるかもしれない。しかしながら、これらの戦略は、臨床実施の前にうまく設計された試験で評価されなければならない。